

網走ほんりゅう組

第412号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪1丁目83-35
TEL 0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
8月26日

夏の合宿研

つながいを深め合える学校へ



八月二三日(土)・二四日(日)、温根湯ホテルで夏の合宿研を行いました。参加者は一二名と少なかつたですが、学習会・夜の交流会、そして、二日目の木工教室と、とても充実した二日間を過ごすことができました。

一日目は、「つながりを深め、学び合い、助け合いのある学校をめざして」というテーマで学習会を行いました。今回の学習会には、北海道子どもセンターの谷先生や宗谷教組の内藤先生がレポートを持って参加してください。網走教組の枠を超えて開催することができました。このテーマで学習会を行ったのは、今、全国的に増えてきている困難を抱える子どもたちにとって豊かに成長できる環境を学校の中にどうつくっていくかが、学校の緊急な課題と考えたからです。

学習会では、六本のレポート発表(うち一本はレポートのみの参加)があり、様々な困難を抱えた子どもたちの様子や、そういう子どもたちに対応する先生方の取り組みなどが報告されました。子どもセンターの谷先生からは、「発達障害だけの理解ではなく、その子自身を理解すること、そして、その子がどんな子かを判定するのではなく理解する努力が大切」という話をして下さいました。また、「学校にある管理体制が、困難



を抱える子ども達をつくり出しているのではないか」「保育所さえも、学校化してきている」という話もされ、今の教育や学校体制の問題についての指摘もありました。



子どもたちの日常は、生活の困窮などからくる不適切な養育や家族関係のゆがみ、自由な遊びや余暇が奪われることによる生活体験の不足に覆われ、それが学校・学級での孤立化やさまざまな行為・行動の表出、トラブルとなって表れています。また、多くの学級には必ずといっていいほど発達障害、もしくははその疑いのある子どもたちが存在しており、この子どもたちとの関係づくり、子ども集団の中の居場所づくりの課題も避けられません。問題になっています。今回行った学習会は、私たちが毎年行っている「学校づくりの申し入れ書」の内容をより充実・発展させるものとなりました。学習会が、この一回だけで終わらせず、今後、回を重ねていくことが大切だと思います。

夜の交流会では、「だれが握手をしたでしょう」というゲームで盛り上がり、二次会も、時間が経つのを忘れるほど語り合いました。二日目は、木工教室に九名が参加し、思い思いに作品を仕上げていました。今回担当した北見支部の皆さん、ご苦労様でした。



自治体への要請行動の取り組み

八月十一日～十四日、網走教組各支部と高教組各支部が合同で、自治体要請行動を行いました。この中では、各市町村の教育長と「子どもの教育を受ける条件整備の前進」と「教育委員会の運営」の二点について話し合わせ、高校の間口削減の問題や、小中学校の統廃合の問題、教育委員会制度改定に関わるこれからの見直しなどについて意見交流を行いました。各支部の懇談の様子は次の通りです。

【遠軽支部】

八月十三日、道高教組書記長、高教組遠軽支部二名、網走教組二名で、佐呂間町、湧別町、遠軽町の教育長と懇談を行い、高校の間口削減や小中学校の統廃合の問題についての意見交流を行いました。地域から学校がなくなることは、町にとつても、子どもたちにとつても良いこととはなく、互いに協力し合って学校存続のために頑張ろうと確認をすることができました。「学校づくりの申し入れ書」については話し合うことができず、手渡してただけとなってしまいました。

【北見支部】

北見支部は、八月十四日に置戸・訓子府・北見の教育委員会、役所を回りました。特に訓子府では町長が直接対応してくれて、教育についてお互いにぎくばらんに話すことができました。どの地域の教育委員会とも思いは一致できる部分がたくさんありました。一致したお互いの思いを形にしていきたいために、これからも運動を進めていきたいと思いました。

【網走支部】

八月十九日、道高教組委員長、高教組網走支部二名、網走教組二名で、網走市教育委員会との懇談を行いました。教育条件整備や学力テストの問題、教育委員会制度の改定に関わる教育委員会の考えなどを聞くことができました。網走教組からは、「学校づくりの申し入れ書」を手渡しました。

今回は、高教組が各教育委員会との懇談の場をセットしてくださり、同行させてもらうという形となりましたが、今回一緒に回ったことで、教育委員会との繋がりをつくることができました。これを機会に、網走教組単独でも、教育委員会との話し合いができるよう、取り組みを進めて行きましょう。

矢臼別盆踊りに参加して

8月9日(日)、別海町で「矢臼別平和盆おどり」が行われました。今年には平和盆踊りも第50回目と節目の年を迎え、網走教組からも多数の参加を呼びかけました。全国からは延べ1400人ほどの参加があり、網走教組からは斎藤正先生、大坪先生、若狭先生、和田の4名が参加、元網走教組の熊越先生、道教組本部の梶木先生も参加するなど、道教組は全釧路・根室教組を除いて、10名の参加となりました。



歌声交流の後、午後6時から開会集会が行われ、その中で構成詩「矢臼別の原野高く」の発表に大きな拍手が起こりました。そして、かがり火点火、花火の打ち上げと続き、盆踊りが始まりました。全釧路の食べ放題1000円、食べ飲み放題2000円の焼き肉を囲みながら、道教組の組合員を始め、この夏矢臼別に来た人たちとの交流を深めました。



夜は車中泊をし、翌朝、和田は矢臼部基地巡りに参加しました。敷地内の建物や多くの碑を巡った後、自衛隊の立ち入り禁止区域が左右にある道路を15~20分歩いて、ハスカップの畑ある家まで行って戻ってきました。翌朝(?)から両足の筋肉痛に襲われてしまいました。



そして、朝食後に別海の町中に移動し、米海兵隊移転訓練反対8・10全道集会に参加、しました。米海兵隊は、昨年の誤射事件について、まともな説明も反省もないまま、「沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練」の移転訓練を矢臼別で行うと通告してきました。なんの反省もないまま移転訓練をするなど言語道断です。決して許すわけにはいきません。集会の最後は「日本を戦争する国にさせない！日米安保を破棄し、平和憲法を守るたたかいを進めよう！！」の集会アピールを拍手で採択して集会は終了しました。その後、別海の町中をシュプレヒコールをしながらデモ行進して終わりとなりました。

